

冬季巡検会の報告：富士山こどもの国を見学して

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-05-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 松本, 仁美 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00025133

冬季巡検会の報告

～富士山こどもの国を見学して～

松 本 仁 美*

平成 11 年 12 月 19 日(日)、静岡県立自然史博物館設立推進協議会との共催で、「富士山こどもの国」と「裾野市立富士山資料館」の見学会が実施された。案内は、篠ヶ瀬卓二東部支部長、山本玄珠会員(富士高校)、和田秀樹会員(静岡大学)にお願いした。参加者は、27 名であった。

1 「富士山こどもの国」の概要

「富士山こどもの国」の A 駐車場に午前 10 時に集合し、自然史博物館協議会伊藤二郎会長挨拶の後、「こどもの国」の施設概要について、当施設広報担当の方から説明を受けた。

「富士山こどもの国」は、子供に夢とロマンを育む公園として平成元年に計画が立てられ、平成 6 年 10 月竣工の後、平成 11 年 4 月 26 日にオープンした。園内は、「草原」、「水」、「森」、「地」、「山」をテーマにした 5 つの小国と「街」のエリアから構成されており、現在は、「草原の国」、「水の国」、「街」の 3 つのエリア、83 ha が開園されている。全てのエリアが開園されると、総面積は 193 ha、富士山の麓、標高 800 m～930 m に広大な公園が出来上がる。

この公園の特徴は、何と言っても広い敷地を持っていることである。大地と自然を遊具として子供自らが遊びを創り上げ、今の子供たちに失われている「時間」と「空間」と「仲間」を回復させようという趣旨から創られたからである。従って、子供の施設にありがちなジェットコースターや観覧車などの遊具施設は一切なく、ただ広い遊び場と少しの建物があるのみで、自然とふれ合ってほしいという願いが伝わってくる。計画時に県内の子供より構想を募集し、「大きな遊具はいらない、ただ広い遊び場がほしい」という子供の提案も施設づくりの構想に少なからずの影響を与えている。子供の発想を施設づくりに活かそうとする考えはとても良い。

園内は、「街」のゾーンにビジターセンター(こどもセンター)や集会場(こどもホール)などがあり、レストランも運営されている。また、民間のロッジも運営されていて宿泊(定員 50 名)も可能である。「草原の国」や「水の国」に行くこども列車はここから出ている。

「草原の国」には、展望の丘、ポニーの放牧場、雪の丘などがあり、広い草原の中を植物を眺めたり動物とふれ合ったり、冬には雪遊びができたりする。また、キャンプサイトやパオ集落もありバーベキューや寝泊まりもできる。西端には、オートキャンプ場も造られている。

「水の国」は、パンフレットによれば、広い水の遊び場があり筏やカヌーが楽しめる。水生植物も観察できるようである。

園内には、子供の遊びを支援する大人(プレイリーダー)がいて、子供の遊びを広げてくれる。学校や子供会などの宿泊体験教室などに大いに利用できると思われる。

* 静岡市立一番町小学校

2 園内を一巡して

施設の概要を伺った後、施設内を見学し、施設内とその周辺の地質について講師の先生方より案内を受けた。(図1参照)

まず、「街」のエリアにある展望台(見晴らし塚)に登り「こどもの国」の全容を概観し、この地域の溶岩(曾比奈溶岩、砂沢溶岩、勢子辻溶岩、日本ランド溶岩、小天狗溶岩)の分布・特徴の説明を受けた。次に、これらの溶岩を敷き詰めた遊歩道を通り、「草原の国」を一巡した。園内を一巡してみて、いろいろな遊びを想定して施設が造られているようだが、子供の遊びのきっかけになるようなもの(道具)が少ないのではないだろうかとの感想を持った。まだ開園されていない「森の国」や「地の国」が開かれれば、さらに多くの自然を利用した遊び場が造られるのかもしれないが、それにはまだ時間がかかるだろう。また、今まで園内では大きなけがはなかったとのことだが、安全性に疑問のある施設も見受けられた。

さらに、園内にある自然(地学的なものとして、溶岩地形、溶岩樹形、溶岩洞穴など)についても残念ながら十分な措置がとられているとは言い難い。説明用の看板もなく、しかも直接触れて観察することもできないので、せっかくの財産を活かしていないのが残念である。

3 「富士山こどもの国」内で見られる溶岩や溶岩樹形、溶岩洞穴

(1) こどもの国に分布する溶岩(図1参照)

「こどもの国」は、富士火山と愛鷹火山の境界付近に建設されている。現在開園されている「街」、

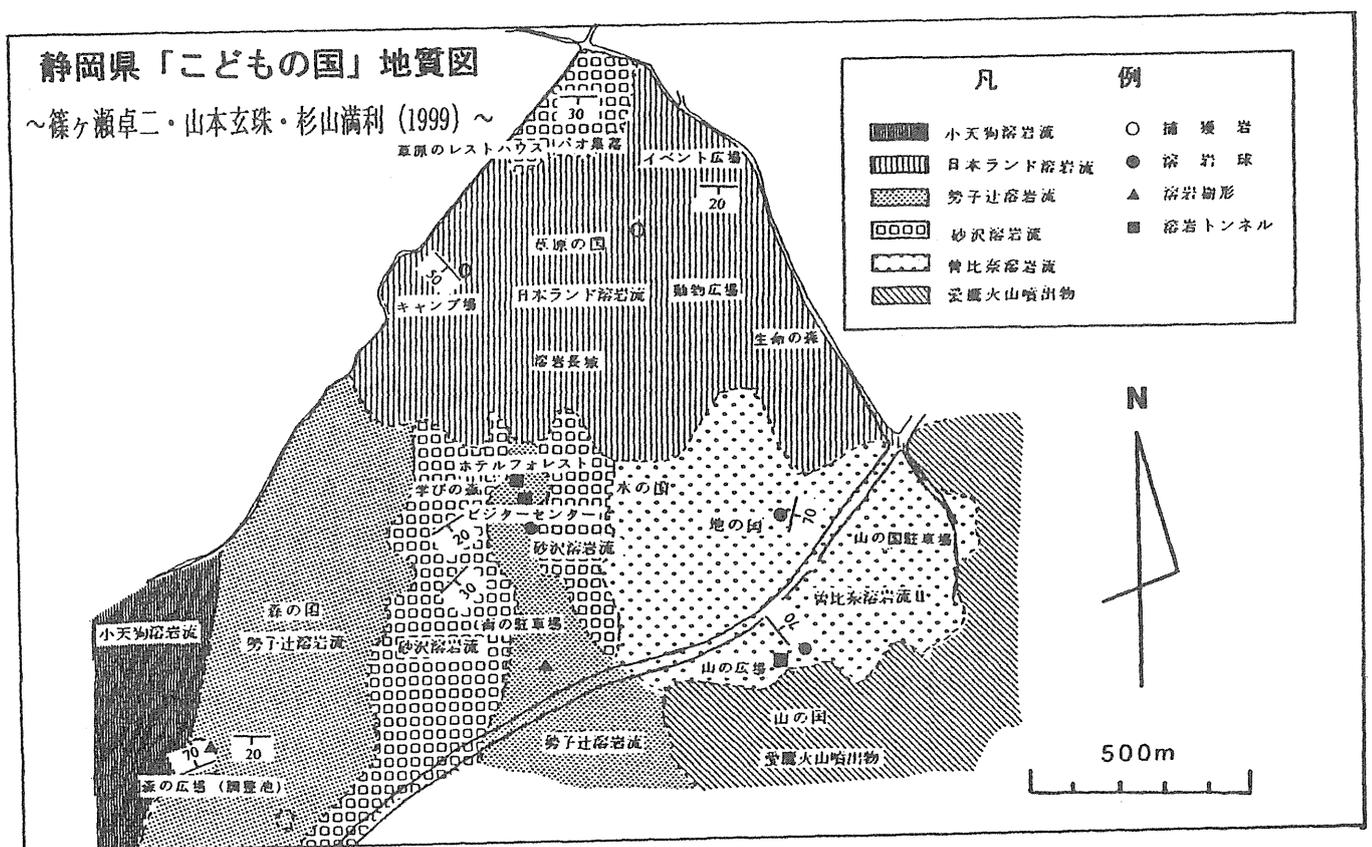


図1 「富士山こどもの国」の地質図 ～篠ヶ瀬他(1999)から引用～

「草原の国」、「水の国」の敷地内には富士火山の溶岩が広く分布し、砂沢溶岩（約9000年前）、勢子辻溶岩（約6000年前）、日本ランド溶岩（約4000年前）が観察できる。いずれの溶岩も輝石の斑晶と斜長石の斑晶を含んでいるが、ビジターセンター付近に分布する勢子辻溶岩にはかんらん石の斑晶も見つけられる。この勢子辻溶岩内中には、溶岩洞穴や溶岩樹形が発見されている。

「こどもの国」敷地内の地質については、篠ヶ瀬会員の詳しい報告が、静岡地学70号（1994）、74号（1996）、79号（1999・共著）にある。詳細を知りたい方は、それをご覧いただきたい。

(2) ビジターセンター横集会場（こどもホール）内の溶岩樹形

こどもホール内に溶岩樹形が保存されている。床の一画に窓が取り付けられていて、観察できるようになっているが、照明設備や説明板もなく、ただガラス板の上から覗く形になっているので、下の方は暗くわかりにくい。それでもなんとか木肌を観察することができる。篠ヶ瀬（1996）の報告によれば、直径約50cm、深さ3m程のしっかりした溶岩樹形である。フロアーの下にあるので説明用の看板等を取り付けることは難しいであろう。掘り出して、別の場所に展示するなどの措置をとった方がより多くの人々に、貴重な自然の財産を紹介できるだろう。

(3) 駐車場内の溶岩樹形

駐車場に一角にあるが、説明用の看板はなく全く目立たない。観察窓は一見すれば、排水溝の蓋かなにかと見間違えてしまう。篠ヶ瀬（1996）によれば、深さ2.5m、長径60cm、短径52cmの直立溶岩樹形で木肌もしっかりしており素晴らしいものであるそうだが、鉄製蓋が固定されていて下に降りることができない。しかも、雨水防止のためビニルシートに覆われていて、樹形本体の様子をまった



写真1 勢子辻溶岩と溶岩洞穴の観察
写真左下マンホールから溶岩洞穴に降りられる。

く見ることができない。保存のためとはいえ、せっかくの自然財産が見られないのは何の意味もない。県当局の自然に対する意識の低さが表われているような気がする。何かしら工夫をこらし、公開できる措置をとってほしい。

(4) 駐車場脇の溶岩洞穴

勢子辻溶岩内の溶岩洞穴が観察できる。勢子辻溶岩は、カンラン石の結晶を含む発泡度の高い溶岩である。洞穴のある位置には、説明用の掲示板がありフェンスで仕切られている。鉄製の蓋を開け、階段を使って下に降りることができる。(写真1)

洞穴内の広さは、かなり広く27人の人間が入っても十分な広さがある。篠ヶ瀬(1996)によれば、全長33m、天井の高さは4mである。天井のほんの一部に溶岩鍾乳石が見られるのみで、ほとんどが崩れ落ちている。近い将来、全体が崩れ落ちる可能性もある。

(5) 草原の国キャンプ場付近の溶岩

この付近では、日本ランド溶岩が観察できる。日本ランド溶岩は、塊状部と破砕部が交互に発達するアア溶岩で、直径2～4mmの斜長石と2mm程度の輝石を含み、所々に斜長石斑レイ岩の捕獲岩を含んでいる。塊状部と破砕部が交互に発達する層状構造は、溶岩の流動方向が南から南南西方向で斜度は20～50度とかなりばらついている。

全体的に見て、「富士山こどもの国」は、地学的な自然が豊富に楽しめる所であるのに、それを興味を持って観察できる場やきっかけとなる物が少ないのが不満である。ビジターセンター前の芝生には、掘り出した溶岩樹形が置いてあるが、説明版もないため、それが何であるか分からない来園者も多いだろう。センター内には、地質概要が説明されているコーナーがあったが、教えることをなるべく少なくする措置とはいえ、価値のある自然物に対しては知らせていくことが大事なのではないだろうか。

4 裾野市立富士山資料館

「こどもの国」見学後、裾野市にある「富士山資料館」を見学した。「富士山資料館」は、東富士演習場のすぐ近くにある博物館である。富士山の自然とその周辺に住む人々の暮らしを中心に展示してある。

「富士山こどもの国」の見学が主であったため、「富士山資料館」の見学はわずかな時間しか残っていなかった。閉館真近かに訪れたにもかかわらず、学芸員のご厚意で、資料館の概要説明後、所蔵品倉庫も見せていただいた。地方の小さな博物館はどれもそうであるように、この「富士山資料館」も所蔵品の保存・整理に苦勞しているようである。それでも学芸員の方の熱心な活動によく保存・整理されていると感じた。

館内の展示物については、見学の時間がなかったので素通りしただけに終わってしまったが、ニホンオオカミの頭骨や溶岩鍾乳石等の展示品はなかなか立派であったと記憶している。

以上を持って、今回の巡検会を無事終えることができた。終日案内をしていただいた、篠ヶ瀬会員、山本会員、和田会員にお礼申し上げる。